

大久保街亜・鈴木 玄・Michael E. R. Nicholls. (2014).
日本語版FLANDERS利き手テスト：信頼性と妥当性の検討
心理学研究, **85**, 434-442.

大久保 街亜

利き手は大脳半球左右差に影響される (see, Bryden 1982; Annett, 1985, 2002 for reviews)。また、利き手の運動機能は、非利き手よりも優れている。従って、利き手は実験心理学や神経科学の実証的検討において、極めて重要な統制すべき変数である。

利き手の検査にはさまざまなものがあるが、どれにもいくつかの欠点がある。例えば、最も良く使われている検査としてエジンバラ利き手質問紙がある (Oldfield, 1971)。この質問紙は40年以上も前に作成されたもので、近年ではほとんど使わない行為についてたずねる項目が含まれている (例；マッチをする等)。また、質問紙の教示がわかりにくく、参加者の多くが誤解をして回答することが指摘されている (Fazio, 2012)。日本人向けに作成された利き手質問紙としては、H・Nきき手テストがある (八田・中塚, 1975)。こちらもエジンバラ利き手質問紙と同様、かなり前に作成されたものである。また、日本人の利き手を測定するために作成されたため、日本国内だけで使われており海外ではほとんど知られていない。ほかにもいくつかの利き手質問紙があるが、長さ、回答方法、教示、古さなど、なんらかの問題が指摘されている (for a review, Nicholls, Thomas, Loechester, & Grimshaw, 2013)。

Nicholls et al. (2013) は、既存の利き手質問紙における問題点を吟味し、新たな利き手質問紙「フランダース利き手テスト (Flinders Handedness Survey, 通称FLANDERS)」を作成した。彼らは現代の生活に対応した質問項目を用意した。また、利き手質問紙の因子構造を確認し、熟達した手の作業 (Skilled manual activities) に関連した10項目を抽出した。そして、回答に誤解が生じないように、回答選択肢を右手、左手、両手の三択とした。さらに、両手の選択肢はどちらの手も同じくらい使う場合にのみ選択するよう教示した。

本論文では、フランダース利き手テストの日本語化を行った。このテストは、エジンバラ利き手テストなど、従来の利き手質問紙にあった問題を解決したものである。ただし、八田・中塚(1975)が指摘したように、利き手には文化差があり、フランダース利き手テストがそのまま日本人に適用できるかわからない。また、Fazio et al. (2012) が指摘したように、利き手質問紙の教示が回答に大きな影響を与える。フランダース利き手テストを日本人に対して行うにあたって、教示が適切に理解されているか確認する必要があるだろう。そこで本研究では、我々が翻訳したフランダース利き手調査を実施し、H・Nきき手テスト、およびエジンバラ利き手テストと比較した。また、それぞれ再検査を行い、再検査信頼性をテストした。調査の結果、フランダース利き手テ

ストは1因子の構造をしており、他の利き手質問紙と高い正の相関を示した。エジンバラ利き手テストは2因子構造をしており、熟達した片手の作業ではないものを反映する可能性が考えられた。再テスト信頼性はフランダース利き手テストで最も高く、加えて、今回の調査で得られた利き手の分布はNicholls et al. (2013) のものと類似していた。これらの結果から、日本語化されたフランダース利き手テストは信頼性と妥当性を備えたものであることが示唆された。これまで日本で用いられてきた利き手テストにはいくつかの欠点があった。日本語版フランダース利き手テストはそれらを解消したものであり、現時点ではもっとも推奨されるべき利き手テストであるといえる。

引用文献

- Annett, M. (1985). *Left, Right, Hand and Brain: The Right Shift Theory*. London: Lawrence Earlbaum.
- Annett, M. (2002). *Handedness and Brain Asymmetry*. Hove: Psychology Press.
- Bryden, M. P. (1982). *Laterality: Functional asymmetry in the intact brain*. New York, London, Academic Press.
- Fazio, R., Coenen, C., & Denney, RL. (2012). The original instructions for the Edinburgh Handedness Inventory are misunderstood by the majority of participants. *Laterality*, **17**, 70-77.
- 八田武志・中塚善次郎 (1975). きき手テスト作成の試み 大阪市立大学心理学教室 (編)「大西憲明教授退任記念論集」 pp.224-247.
- Nicholls, M. E. R., Thomas, N. A., Loetscher, T., & Grimshaw, G. (2013). The Flinders Handedness survey (FLANDERS) : A brief measure of skilled hand preference. *Cortex*, **49**, 2914-2926.
- Oldfield, R. C. (1971). The assessment of handedness: the Edinburgh Inventory. *Neuropsychologia*, **9**, 97-133.